

2026年2月の星空

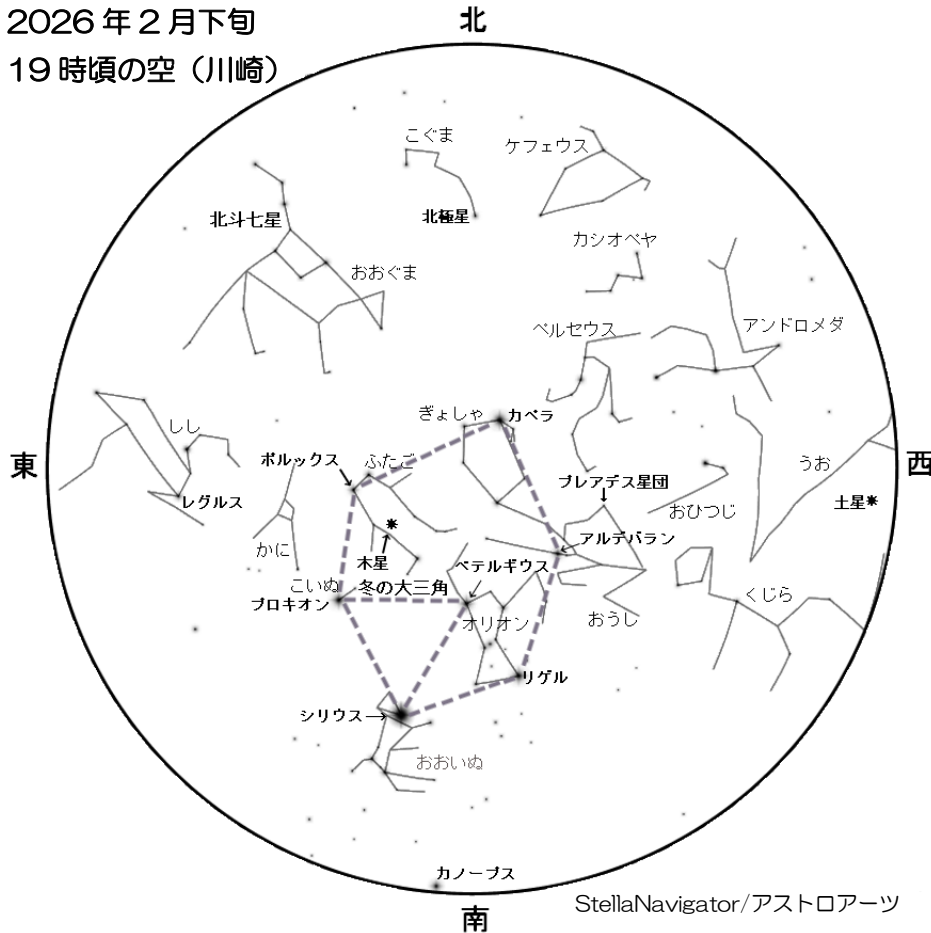
かわさき宙と緑の科学館

アストロテラス 夜間一般公開

2026年2月28日(土)

*このリーフレットは科学館天文サポーターの協力により作成しています。

2026年2月下旬
19時頃の空(川崎)



これからの天体現象

●注目現象

- 3月 2日 月(月齢 13.0)がレグルスを隠す(レグルス食)
(20:31 頃に月の暗い縁から潜入、21:35 頃に明るい縁から出現)
- 3日 皆既月食(18:50 から欠け始め 22:17 に終了)
- 5日 啓蟄(太陽黄経 345 度)
- 8日 金星と土星が接近(夕方 西の低い位置で見える)
- 16日 水星と火星が接近(明け方 東の低い位置で見える)
- 18日 月(月齢 29.0)と火星が接近(明け方 東の低い位置で見える)
- 20日 春分(太陽黄経 0 度)
月(月齢 1.4)と金星が夕方 並んで見える
- 23日 月(月齢 4.4)とプレアデス星団が接近
- 26日 月(月齢 7.5)と木星が接近

●月の満ち欠け

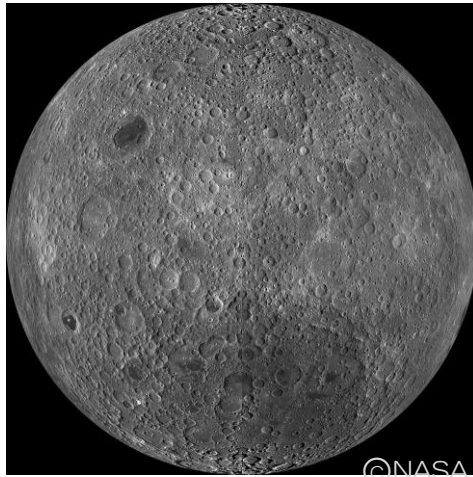
- 3月 3日 満月
- 11日 下弦
- 19日 新月
- 26日 上弦



2026年2月の観望天体（予定）

【月】

今夜の月は月齢11.0、満月にちかくとても明るく輝いています。ところで、私たちはいつも月の「同じ面」しか見ていないことをご存じですか。これは、月の自転の周期と地球のまわりを回る周期（公転周期）が同じだからです。そのため、地球には常に同じ面が向き、裏側を見ることはできません。約60年前、探査機が初めて月の裏側を撮影したとき、世界中がその姿に驚きました。



月の裏側（2009～2011年 ルナールコネサンス・オービターが撮影）

【木星】

木星は、かたい地表面を持つ地球とは異なり、ガスでできた「巨大ガス惑星」です。主な成分は太陽と同じ水素とヘリウムで、中心部の核は岩石や氷でできています。

木星の表面で最も目立つ模様は、「大赤斑」とよばれる巨大な渦模様で、^{だいせきはん}大きさは地球の直径とほぼ同じくらいです。この「大赤斑」は高気圧性の渦ですが、なぜこのような赤色をしているのかは未だに解明されていません。

トピック

【月食と日食どちらが多い？】

3月3日、皆既月食が日本全国で見られます。「また月食？」「去年も皆既月食を見たよ」という人がいるかもしれません。昨年の9月8日には、真夜中過ぎに始まった皆既月食がありました。今回は夜8時ぐらいに皆既になる見やすい時間帯です。

月食に比べて日食を見たことがある人は少ないかもしれません。今回のように半年後にまた月食が見られるということは、月食は日食にくらべてよく起こるのでしょうか。いいえそうではありません。

21世紀の100年間に起こる月食と日食の数を比べてみると、月食142回（皆既月食85回、部分月食57回）、日食224回（皆既日食68回、金環日食72回、金環皆既日食7回、部分日食77回）と月食の方が少ないのです。日食は毎年おこりますが、月食はおこらない年もあります。

日食は地球上の狭い範囲でしか見ることはできませんが、月食は、月が見えていればどこでも見ることはできます。見ることのできる場所の広さの違いで、月食の方がよく起こると思ってしまうのかもしれません。



次回は
3月28日（土）受付時間：18:30～18:50
月と木星を観望予定です。

先着順で整理券を配布し、番号の順に望遠鏡で観望していただきます。
※雨天・曇天等観望が難しいと予想される場合は中止。
（開催の有無は、当日15時に当館HP・Xでお知らせします。）

アストロテラス夜間一般公開
の感想をぜひご記入ください。
（所要時間1～2分程度）



かわさき
雷と緑の科学館
Kawasaki Municipal Science Museum
サイエンスブリック



ぴりんのひとことメモ

3月3日はひな祭りだけど、桃の節句（せっく）とも言うんだよ。「節句」とは、季節の変わり目（節目）に、無病息災や豊作を願って行われてきた伝統的な年中行事の日のことなんだ。5月5日のこどもの日（端午の節句）や、7月7日の七夕、9月9日の菊の節句なんてのもあるんだよ。

最新の科学館の情報は
ホームページ・SNSを
ご確認ください。

